



御輿の巡行(大南商店街)



四体揃っての宮出し(大宮八幡)



ユーモアたっぷりの「オヤジ」



迫力満点の鉢合わせ

じよじんの楽しみ日記 53

「砥部の秋祭り」の巻

松山と同じ十月七日、天候にも恵まれ「砥部の秋祭り」が行われました。私が子供の頃は中予では町(松山)七日、里(松前、伊予)十五日、山(砥部、中山)が二十日以降と収穫の時期に応じて祭りが行われていました。当時は親戚や知人、友人の交流の場でありお互いに行き来し、ごちそうでもてなしたものです。

私が高校時代は、砥部の祭りは二十一日でしたが生活改善ブームの影響か、松前、伊予(仲通り祭り)と一緒に日になりました。変更する時にはお宮の史実、謂われがあるのではないかなりの議論がありました。社会人になって松山まつりと同じ日になる時も賛成、反対があり、同じ大宮八幡宮でありながら旧原町地区は松山まつり、旧砥部地区は中通り祭りという変則的な年もありました。

さて、子供の頃の一番の楽しみは早朝の三時に起きて見に行く御輿のケンカでした。前日から御輿にロープやチェーンを巻き、縄で綱んで川につけて準備をしていました。

その頃はほとんどの人が柔道着でカキ手同士のケンカもある荒っぽい鉢合わせで、松、竹、梅三体の激突に胸躍させたものです。(一度だけ知らぬ間に？御輿に乗っていました)

砥部では今も鉢合わせが続いており、今年も朝五時半から各地区揃いのハッピでカキ手が一つになって「形」になる迫力ある鉢合わせを行いました。その後の地区巡行は各々の地区が責任を持って運行していますが少数で地域の広い所は車で移動しているところもあります。

「まつり」は日本人の心のふるさとです。いつまでも続いて欲しいと願っています。



中村剛志